



龍野地区まちづくりビジョン

概要版

2022 ▶ 2036



たつの市
龍野地区まちづくりビジョン検討委員会



まちづくりビジョン策定の背景と目的

龍野地区は、約1,300年前の『播磨国風土記』にその名が登場して以来、中世、近世においては城下町として発展してきました。特に、近世以降は、醸造産業が発達し、商業の中心地としても栄えました。

また、本地区は、近世の町割りに沿って、町家、寺院、醤油蔵、武家屋敷等がある歴史的な町並みや、鶏籠山の場山、白鷺山の三山と揖保川に代表される豊かな自然が残され、城下町の風情が守られてきました。このような城下町の風情とともに、本地区は、三木露風の生誕地でもあることから「童謡の里」として全国的に知られています。

さらに、うすくち醤油や手延素麺といった特産品の知名度も高く、地区内では、町家や醤油蔵などを活用した「オータムフェスティバルin龍野」や「龍野さくら祭」「町ぢゅう美術館」などのイベントも開催されています。

一方で、小宅地区に大型量販店等が立地したことにより、本地区は、地元住民向け小売業が衰退するとともに、高齢化が進み、生活利便性の低下や空き家の増加といった問題を抱えています。

このような状況において、地区住民のまちづくり活動が継続して行われたことにより、令和元年12月23日に龍野地区の一部が国の重要伝統的建造物群保存地区(以下「重伝建地区」という。)に選定されました。このことにより、来訪者の増加や新しい店舗の展開など新たなまちづくりの方向性が見えてきています。

本計画は、龍野地区が重伝建地区に選定されたことを契機に、賑わいと活力を取り戻し、住民の日常生活とバランスを取りながら発展することを目的として策定するものです。

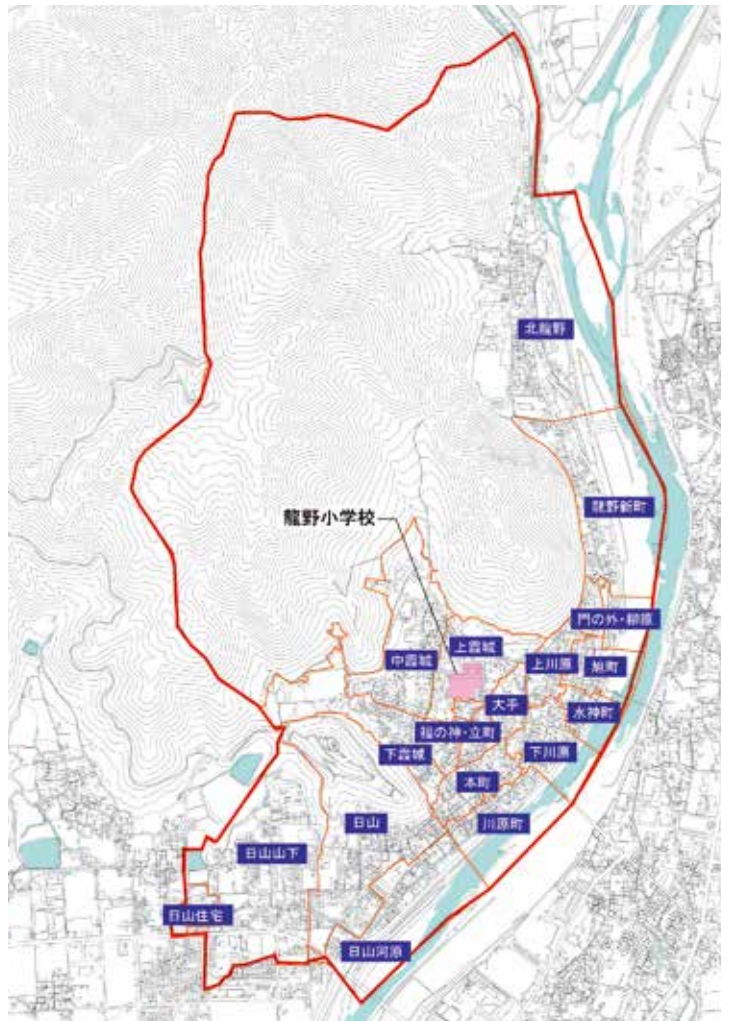
〈計画の期間〉

本計画の期間は、令和4年度(2022年度)から令和18年度(2036年度)までとします。

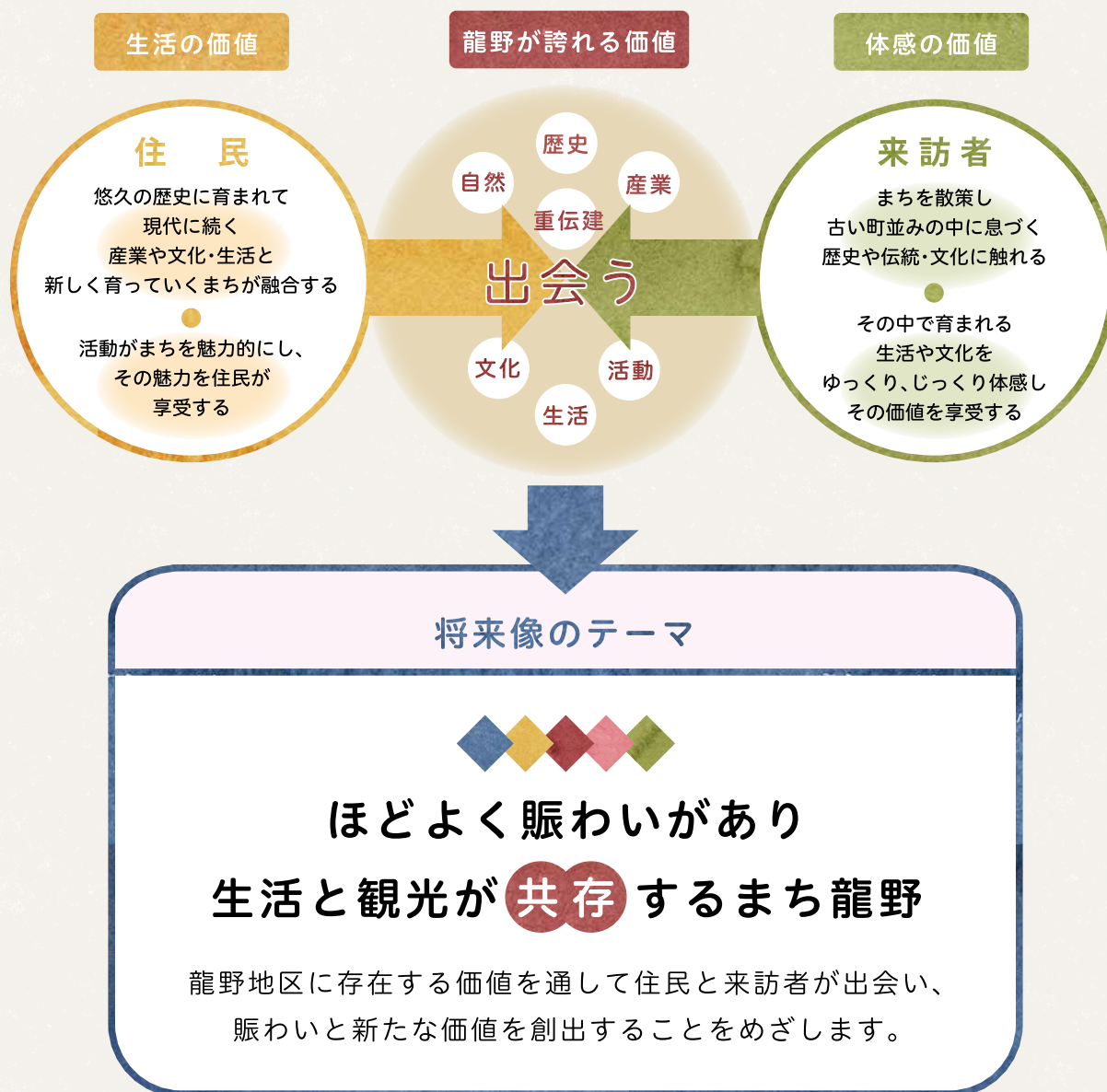
〈計画の区域〉

本計画の区域は、龍野小学校区全域(=龍野地区)とします。

対象面積	337ha
対象自治会	北龍野、龍野新町、門の外・柳原、上川原、旭町、水神町、下川原、大手、福の神・立町、本町、川原町、上霞城、中霞城、下霞城、日山、日山河原、日山山下、日山住宅



龍野地区の将来像



龍野地区まちづくりビジョンを策定するに当たり必要なことは、地区住民の描く将来像を明確にすることです。

そのため、地区住民へのアンケート調査や、自治会をはじめ様々な団体への聞き取り調査を実施し、その結果を通して地区住民の意思を明らかにしてきました。

また、まちづくりワークショップを通して、各種団体等の交流や議論を積み重ねており、今後もこの活動は継続していくことになります。

重伝建地区やそれを取り巻く歴史的な地区、恵まれた自然環境は、龍野地区住民の生活の場であるとともに観光客が訪れる場でもあります。そのため、そこには、ほどよい賑わいが生まれ、住民の生活の価値と来訪者の体感する価値が交流し、共存します。その交流は、童謡の里にふさわしく、優しくゆったりとしたものになります。

加えて、そこにはしっかりとした経済活動が育ち、地区内で循環することによって、若い人たちが住みたくなるまちとなります。

龍野地区の未来のイメージ(将来像)

アクションプランの実践に伴う変化とまちの姿

5年後のまちの姿

龍野の価値を通して、住民と来訪者が会うための基礎整備や取組の準備が進んでいます。具体的には、新たなまちづくり運営組織が立ち上がり、住民同士の交流と助け合いの取組が実践されるとともに、龍野地区住民が、自分たちのまちの魅力を再認識し、おもてなしの心が醸成されています。

また、町並みに調和したサインや案内板が設置され、来訪者が安心してまち歩きを楽しんでいます。地区住民との交流を通して、龍野地区の魅力を満喫したファンが増え、リピーターとなっています。

さらに、町並み整備や空き家の活用が進み、若い世代も暮らしてみたいまちとなっています。

「生活と観光の共存」の

醸成期



10年後のまちの姿

(仮称)まちの会所や公開施設などの来訪者にとって魅力ある施設が整備され、まちづくり運営組織が、その運営を担っています。古い町家を活用した、飲食や物品販売の店舗が民間活力により増加していますが、地区を見渡すまちづくり運営組織の働きにより、全体のルールが守られ、調和が図られている状態です。

龍野地区に見所が増えて、その価値を理解する観光客が数多く訪れ、趣のあるまちの散策を楽しんでいます。

また、まちづくり運営組織は、住民の暮らしをサポートする仕組みを作り、多様な世代がともに安心して快適に住み続けたいまちとなっています。

「生活と観光の共存」の

形成期



15年後のまちの姿

龍野地区のブランド力が高まり、全国や海外から、その価値を理解する観光客が四季を通して安定的に訪れ、地区内に経済効果をもたらしています。

龍野地区に住み続けたい人が増え、若い世代から高齢者まで多様な世代が安全・安心で快適に暮らすことができています。

歴史的建築物等の修理修景事業、無電柱化や道路の美装化も進み、重伝建地区としての落ち着いた町並みが形づくられることにより、龍野地区のブランド力がさらに高められ、「住んで良かった、訪れて良かった」まちが実現しています。

「生活と観光の共存」の

達成期



文教ゾーン

四季折々の風景を楽しむゾーン



龍野公園駐車場から聚遠亭にかけての文学の小径は、春には桜、秋には紅葉を鑑賞する人が多く訪れるエリアです。

龍野公園や龍野動物園も含め、ファミリー層から活動的な中高年層まで幅広く風景を楽しむエリアとして、案内機能の強化や周知を図るゾーンです。

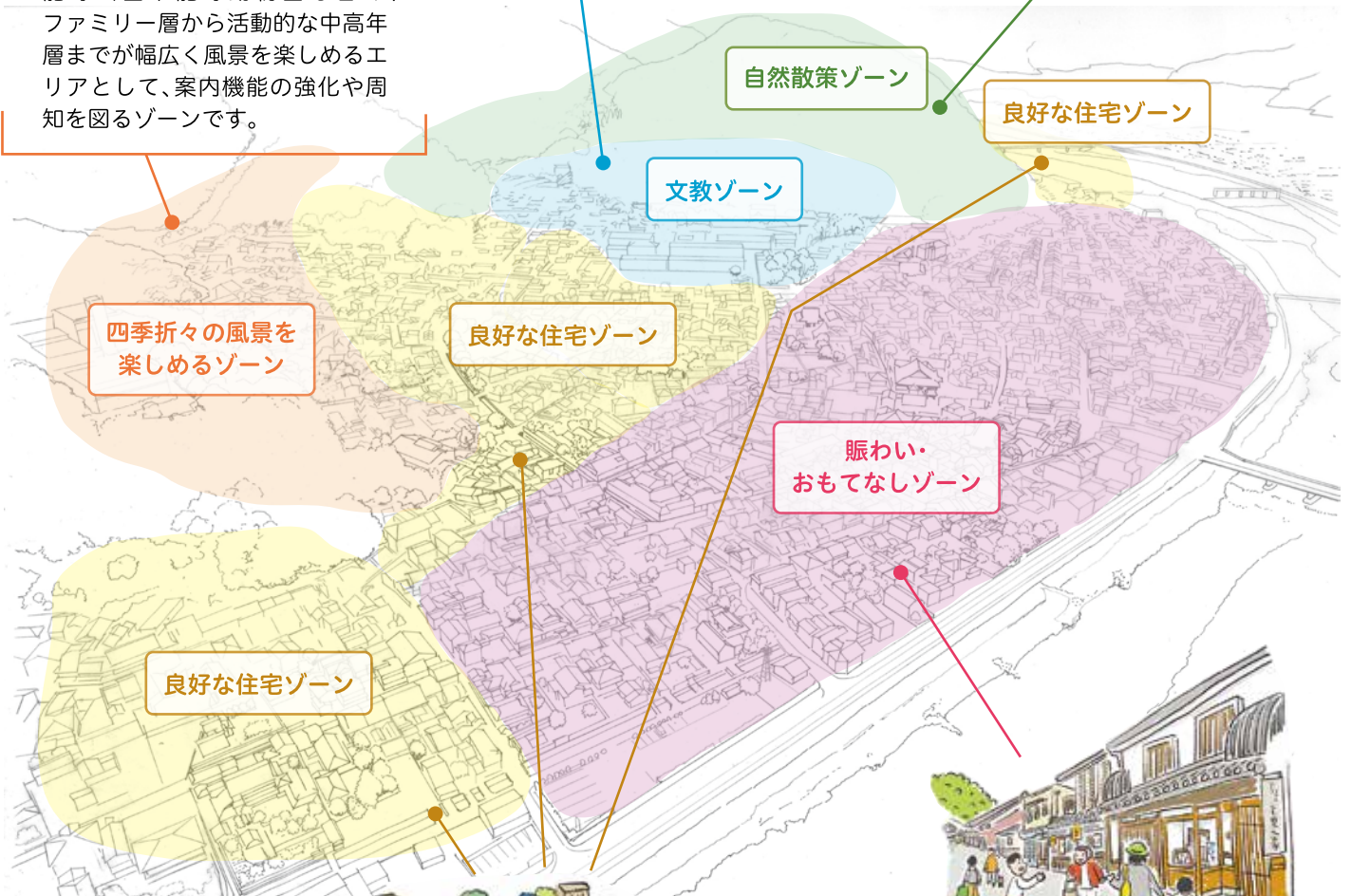


龍野小学校周辺は、龍野城や龍野歴史文化資料館をはじめとして、旧脇坂屋敷、霞城館などの文教施設が集積するエリアで、龍野地区の歴史や文化を深く学べるエリアとして、充実を図るゾーンです。

自然散策ゾーン



龍野古城や野見宿禰神社などを含むエリアで、地元住民や来訪者が散策し、景色を楽しむことができるエリアとして、充実を図るゾーンです。



四季折々の風景を楽しむゾーン

良好な住宅ゾーン

文教ゾーン

良好な住宅ゾーン

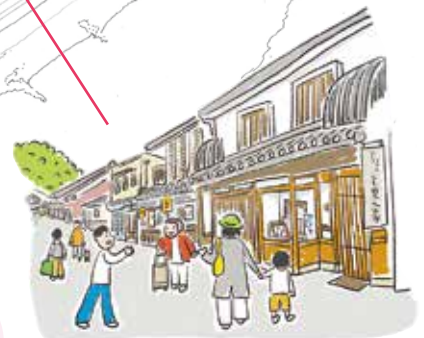
賑わい・おもてなしゾーン

良好な住宅ゾーン

良好な住宅ゾーン

住宅が建ち並ぶエリアで、今後も良好な住宅地として、さらなる発展が期待できるゾーンです。

賑わい・おもてなしゾーン



龍野地区の中でも、店舗が多く集積するエリアで、町家を活用した新たな店舗、地元住民の交流の場、来訪者への案内拠点、公開施設などの充実を図るゾーンです。

山と川の自然に抱かれた、歴史・文化・伝統が暮らしに息づくまちづくり

▶ まちづくりの方向性

龍野地区の豊かな自然や歴史・文化・伝統を次代に継承し、住民が誇りと愛着を持って住み続けることができるまちづくりを実現するために、学習会やワークショップの開催等の取組を実施します。

また、地区の魅力伝える人材の育成や龍野地区で育まれる文化を発信する機会づくりを推進します。

▶ 施策 (アクションプラン)

① 鶏籠山、的場山、白鷺山の三山及び揖保川の自然環境を守り、景観を育む。

1) さくらの再生と龍野さくら祭の開催

② 龍野地区の魅力である日常生活の中に根付いている文化(アート、茶道、醸造等)を磨く。

- 1) 龍野の歴史的建造物等を活用したアート文化の発信
- 2) 龍野検定の実施
- 3) 龍野地区の学習会の実施
- 4) 龍野ふるさとガイドの育成、進化、拡充

③ 子どもへの教育・体験を通して誇れる文化を継承する。

- 1) 市民が学ぶ龍野地区ガイドワークショップの実施
- 2) 小学校と連携した「ふるさと学習」機会の提供



暮らしの楽しみを実感できるまちづくり

▶ まちづくりの方向性

子どもからお年寄り、子育てや共働き世代等、様々な人たちが、先人たちから受け継いできた龍野地区での暮らしを次代に引き継ぐとともに、一人ひとりが暮らしを楽しみながら、安全・安心で快適に龍野地区に住み続けられるまちづくりを実現するため、地域住民の相互扶助の仕組みづくりやコミュニケーションの場づくりを行います。

また、行政と連携して地区住民が主体的に災害対応することができる防災計画を策定するとともに、定期的な防災訓練を実施し、住民の協力体制を構築します。

▶ 施策 (アクションプラン)

① 食料品や日用品の買い物先の確保に努め、安全で安心な暮らし、生活の利便性を向上させる。

- 1) (仮称)「まちの会所」づくりの推進(暮らしサポート編)
- 2) 誰もが安心して使える公園の整備

② 防災対策等を通じて、地区住民の調和を図り、コミュニティの育成を進める。

- 1) 防災計画の策定
- 2) 防災訓練の実施



重伝建地区の選定を契機とした町並み保存・活用のまちづくり

▶ まちづくりの方向性

歴史的な町並みを保存していくことを基本としながら、重伝建制度等を活用した町並み整備を進め、住民の誇りや愛着を醸成します。

また、龍野地区全体の価値を高めるため、空き家を積極的に活用し、若い世代が居住しやすい環境づくりと来訪者が心地よく過ごせるための拠点づくり等のまちづくりを推進します。

▶ 施策 (アクションプラン)

- | |
|-------------------------------------------------|
| ① 重伝建地区の制度を活用し、町並みを整備する。 |
| 1) 重伝建地区の制度を活用した修理修景事業の推進
2) 修理修景事業に係る研修会の実施 |
| ② 景観のゾーンや道筋に配慮した町並み保全、修理・修景に努める。 |
| 1) 道路美装化の推進
2) 無電柱化の推進 |
| ③ 空き家活用等により、移住者の住まいや活動の場を確保し、空き家の有効活用を図る。 |
| 1) 空き家活用の促進
2) 空き家情報の収集と一元的管理 |



ふるさと感を共有できる、もてなし、つながりのあるまちづくり

▶ まちづくりの方向性

龍野地区は、何度も訪れる人が多いことが特徴です。こうした来訪者は、単にモノだけでなく、龍野地区の伝統や暮らしを体感し、地区住民とのつながりを深めることを求めています。

このような来訪者に、龍野地区住民のおもてなしの心を伝えられるよう、来訪者の動線や案内機能の充実、見直し等に取り組みます。

▶ 施策 (アクションプラン)

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 個人で訪れ、まち歩きをゆっくり楽しむ仕掛けをつくる。 |
| 1) 観光振興計画(全市)の策定
2) 来訪者動線の明確化及び龍野地区内の交通システムの構築
3) サイン・案内板設置の推進 |
| ② 重伝建地区をはじめ、質の高い歴史・文化・伝統に育まれた資源を生かす。 |
| 1) 公開施設整備の推進
2) (仮称)「ちょっと見ん家」整備の推進 |
| ③ 龍野地区の誇りを持った住民とその価値を理解する来訪者により観光・交流を推進する。 |
| 1) (仮称)「まちの会所」づくりの推進(交流編)
2) 令和版「一六夜店」の開催
3) 既存イベントの継続的な実施 |
| ④ 一元化した情報発信で龍野地区の魅力と価値をアピールする。 |
| 1) (仮称)「まちの会所」づくりの推進(ガイドンス編)
2) 情報の一元化と発信
3) キャッチフレーズ・ロゴマーク等の作成
4) フィルムコミッションによるまちのPR |
| ⑤ 龍野地区全体のゾーニングを明確化する。 |
| 1) ゾーニングに合わせた計画策定の検討 |



ヒト・モノ・コトをつなぐ 協働のまちづくり

▶ まちづくりの方向性

龍野地区内で行っている個々の活動を龍野地区全体のまちづくりの力にし、次代に引き継いでいくことが重要です。そのため、これまでの活動や歴史的経緯を踏まえながら、地区住民、関係団体、店舗、事業者、行政等様々な団体の活動が連携し、協働による持続可能なまちづくりを推進するための組織の設立を検討します。

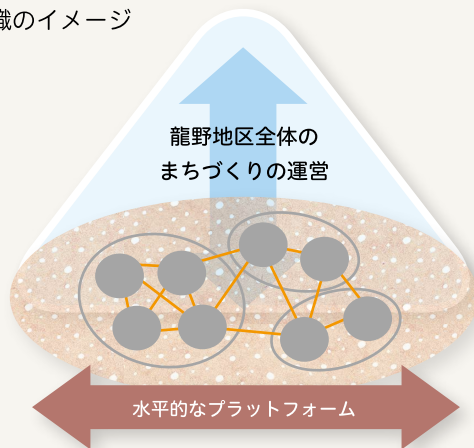
▶ 施策 (アクションプラン)

- ① 地区や組織を超えた横のつながりをつくる。
- ② 活動を継続していく仕組みをつくる。
- ③ 龍野地区全体で情報を共有する。
- ④ 龍野地区と行政が協働する。

1) まちづくり運営組織の設立



組織のイメージ



組織の方向性

- ① 地域住民が誰でも参加できる。
- ② 収益をあげることによって持続的にまちづくりを進めることができる。
- ③ 既存の活動団体や組織も組み込むことができる。
- ④ 行政と連携する。



龍野地区まちづくりビジョン概要版



発行：令和4年3月

たつの市 都市政策部 まちづくり推進課

〒679-4192 たつの市龍野町富永1005番地1

TEL：(0791)64-3167 FAX：(0791)63-2594

E-mail：machizukuri@city.tatsuno.lg.jp

URL：https://www.city.tatsuno.lg.jp